

asahi.com(朝日新聞社): 患者団体が1型糖尿病研究を助成 根治療法開発めざす...

asahi.com

現在位置: asahi.com ニュース 社会 その他・話題 記事

患者団体が1型糖尿病研究を助成 根治療法開発めざす

2009年1月27日9時52分

1型糖尿病に苦しむ患者や家族らでつくるNPO法人「日本IDDMネットワーク」(井上龍夫理事長)は根治療法の開発を推進するため、研究者らに助成する仕組みをつくった。26日会見し、初の助成先となる2グループを発表するとともに、基金への協力を訴えた。

同ネットワークは05年に創設した基金に集まった約200万円を、遺伝子治療の研究(大阪大)と、移植時の免疫による拒絶反応を緩和する研究(徳島大)に助成する。31日に岡山市で贈呈式を行う。

1型糖尿病は、血液中の血糖を調節するインスリンをつくる膵臓(すいぞう)の細胞が壊れる病気。生活習慣などが原因で発症、進行する「2型」と異なり、突発的に小児期に発症することが多い。国内患者数は推定5万~6万人。患者はインスリンの自己注射などが生涯続く。

1型糖尿病と闘う阪神タイガースの岩田稔投手も最近、基金を知ったといい、寄付の意向を伝えているという。井上理事長は「今後、さらに広く寄付を募り、研究支援を充実させたい」と話した。

岩田 糖尿病根治に1勝につき10万円寄付



子どもにサインのプレゼントをする阪神・岩田稔=宣野座

阪神・岩田稔投手(25)が28日、1型糖尿病根治に向けた研究費として、シーズンで1勝につき10万円を「特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク」を通じて研究機関に寄付する考えを明らかにした。自身と同じ病気で苦しむ患者らの希望となるべく、若き左腕は「15勝&WBC日本代表入り」を目指していく。



願裏に描く夢に、明確な目標を設定した。1型糖尿病を抱えながら野球を続ける岩田は、同じ病気で苦しむ人たちの希望になりたい、根治に向けた援助がしたいと願っている。そして『1勝につき10万円の寄付』という形が実現した。

きっかけは昨年12月23日。『日本IDDMネットワーク(1型糖尿病患者会)』が主催するクリスマスパーティーに参加したときのことだった。同会の井上龍夫理事長(56)から「原因究明と病気の根治に向けた基金への助成をお願いしたい」と懇願された話し合いを重ね、シーズンの成績に応じて寄付金を援助するプランが決まった。

「僕だけじゃなく、日本には同じ病気で苦しんでいる人がたくさんいる。その人たちのために野球をやりたい」

10万人に1~2人とされる1型糖尿病にはまだ根治に向けた具体的な治療法がない。現在の治療法は注射によるインスリンの補充療法のみで、岩田は勝ち星を積み重ねることで、根治に向けての援助をしていく考えだ。

この日は宣野座球場でブルペンに入り、WBC球を使って71球の投球練習。打者を想定して変化球を交えながらの投球は、代表入りに向けて順調な仕上がりを証明した。「寄付するためにも勝たないといけない。試合に勝って協力したいですね」と岩田。マウンドでの勇姿で、そして勝利の寄付金で、若き左腕が1型糖尿病患者の希望の星になる。

1勝捧げる！ 虎・岩田が糖尿病研究にひと肌

2009.1.29 05:03

SPONSORED BY

SANSPO.COM

仲間を救いたい。阪神・岩田稔投手(25)が28日、沖縄合同自主トレで連日のブルペン入り。チーム最多の71球を投げた左腕の心の支えが自らも闘う1型糖尿病の研究所への基金。「1勝ごとに10万円を寄付したい」。今季の目標は150万円。“銭闘”が始まる。



ブルペンで熱投を披露する岩田【フォト】

肌を焦がすような南国の太陽。気温も23度を超えるなか、ブルペンを吹き抜ける風が心地よかった。長袖シャツ、短パン姿の岩田が快汗の熱投だ。

「そこまで乱れているというわけじゃないですが、ちょっと横に滑る感じ。(フォークが)抜けて真ん中に入らないように意識していますが、今日はベースの手前過ぎたんで。これからバッターに投げて感覚をつかんでいきたい」

左打者、右打者をイメージしながら岡崎相手に投手陣最多の71球。ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)の日本代表入りを目指し、本番に備えて公式球を使い始めて10日あまり。習得中のフォークのコントロールミスを課題を挙げた。

日の丸とチームではローテ死守。“二兎”を追う男の発奮材料となっているのが基金だ。

「1勝につき10万円を寄付できるようにしたいと思っています。しっかり結果を残してそういう風にしよう」と

昨年末の日本IDDMネットワーク(1型糖尿病患者会)のクリスマスパーティーで「1型糖尿病研究基金」の存在を初めて知った。同基金は1型糖尿病の根治につながる先進的な研究の助成実施が目的。協力する意向を示し、26日に初めて助成が決まったことで、プランを固めた。

この『1勝=10万円』は大きな意味を持つ。今回、同基金は3年かけてようやく集めた金額がおよそ200万円。岩田が目標とする15勝に到達すればわずか1年で相当額になる。資金的な援助だけでなく希望を背負うことで、励みになる。自身も「そうなるようにしないといけない」と意気込む。

「(患者は)僕だけじゃないんで…日本中にそういう人たちがいてるんでね」

若き左腕が侍ジャパンと社会の救世主へ。岩田が自らの力で明かりを照らす。(小松真也)

“1勝10万円”糖尿病研究、岩田寄付へ

糖尿病と闘いながら、プロのマウンドに立っている阪神の岩田＝写真＝が28日、「1型糖尿病研究基金」へ、シーズンで1勝を挙げるごとに10万円を寄付する考えを明らかにした。



同基金は、病気の研究に充ててもらおうと、患者の家族らで作る特定非営利活動(NPO)法人「日本IDD Mネットワーク」(井上龍夫理事長)が2005年に設立。大阪桐蔭高2年の時に1型糖尿病を発症した岩田は、これまでも闘病中の子どもを甲子園球場に招待したり、講演会を開いたりしてきたが、昨年12月、基金の存在を知り、寄付することを決めた。

岩田は昨季、自己最多の10勝をマーク。「日本中にいる患者のみなさんのために、何かの役に立てれば。(寄付するためには)一軍で活躍しないといけないので、しっかり結果を残したい」と抱負を語った。

(2009年1月29日 読売新聞)

阪神・岩田の思いに理事長感激

2009.1.29 05:00

SPONSORED BY

SANSPO.COM

阪神・岩田稔投手(25)が28日、沖縄合同自主トレで連日のブルペン入り。チーム最多の71球を投げた左腕の心の支えが自らも闘う1型糖尿病の研究所への基金。「1勝ごとに10万円を寄付したい」。今季の目標は150万円。“銭闘”が始まる。

岩田の思いを伝え聞いた1型糖尿病の患者・家族の会の連携組織「日本IDD Mネットワーク」井上龍夫理事長(56)は感激。「彼が投げしてくれるだけでも患者の励みになるが、それに加えて寄付となれば…有り難い話です。これまで寄付金を集めることも難しい部分があったんで、一般の方々にも認知していただけるのではないかと話した。

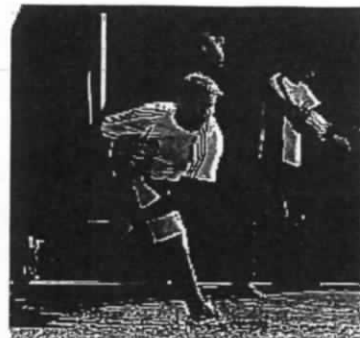
おあさか報知

岩田が1勝につき10万円「糖尿病基金」に寄付…阪神

阪神・岩田稔投手(25)が28日、自身も闘いを続ける1型糖尿病の原因究明、根治を目的とした「1型糖尿病研究基金」への協力を宣言した。シーズンで1勝するごとに10万円を同基金に寄付し、研究に役立てたい考えだ。

基金の存在を知ったのは、昨年12月のこと。名古屋市内で行われた日本IDD Mネットワーク(1型糖尿病患者の支援組織)主催のクリスマスパーティーに出席した際、同組織の井上理事長から伝えられた。岩田は「何かできることはないか」とすぐに考えをめぐらせ、自身の成績に連動した寄付を思いついた。

自身が勝利を積み重ねるほど、より大きな支援ができる。「1勝でも多く勝たないといけない。結果を残して応えない」と、1勝へのこだわりがさらに増した。この日は自主トレ先の沖縄でブルペン入りし、WBCで使用するメジャー球を使って習得を目指すフォークを試投した。「早く(打者に対して)投げたい」基金への協力が、新たなモチベーションになっている。



ブルペンで力こもった投球を見せた岩田(右は黒田、中は石川)

(2009年1月29日10時32分 スポーツ報知)

なくそう・減らそう糖尿病:「1型」根治目指し研究者2人に 助成 基金活用し患者団体

1型糖尿病の患者団体「日本IDDMネットワーク」(井上龍夫理事長)は病気の根治につながる研究に取り組む研究者2人に、各100万円を助成することを決めた。患者や家族からの募金で運用されている基金を活用した。助成は今回が初めてで、ネットワークは今後も支援を呼びかけている。

助成されるのは、膵臓(すいぞう)の別の細胞をインスリン分泌細胞に「変身」させるのに必要な技術開発に取り組む松崎高志・大阪大特任助教▽他人からのインスリン分泌細胞の移植で、拒絶反応を防ぐ研究をしている杉本光司・徳島大研究員。31日、岡山市で開かれる全国シンポジウムで贈呈する。

1型糖尿病は血糖値を下げるホルモン「インスリン」を分泌する膵臓の細胞が破壊される病気。生涯、インスリンを注射で補う必要があり、根治治療への期待が強い。

この活動には、1型糖尿病のプロ野球選手、岩田稔投手(阪神タイガース)も協力を申し出ているという。井上理事長は「年間1億円程度の助成を目標にしたい」と話す。【下桐実雅子】

毎日新聞 2009年1月30日 東京朝刊

「1型糖尿病」研究 患者団体が助成へ

「1型糖尿病」(IDDM)の患者団体「日本IDDMネットワーク」(井上龍夫理事長)は26日、糖尿病の根治療法を開発するため、会員らから集まった寄付金で研究費の助成を行うと発表した。

患者団体による研究費助成は、国内では珍しい。

1型糖尿病は、血糖値を下げるのに必要なインスリンが膵臓から分泌されなくなる病気で原因不明。全糖尿病患者の約1%を占める。

寄付金は約200万円が集まり、大阪大と徳島大などの二つの研究グループに、100万円ずつ助成する。ネットワークは今後も寄付金を募り、研究助成を続ける。

(2009年1月30日 読売新聞)

サンスポ SANSPO.COM

阪神・岩田が糖尿病基金に70万円寄付

2009.11.22 05:01



1型糖尿病研究基金の井上理事長（右）に寄付金を手渡す岩田【フォト】

大黒柱の自覚 -。阪神・岩田稔投手（26）が21日、甲子園で1型糖尿病研究基金へ70万円を寄付した。今季から始めた『1勝ごとに10万円』という寄付金。故障で出遅れ7勝に終わった今季より、「倍ぐらいはしたい」と意気込み、「しっかりとローテーションを守りたい」と誓いを立てた。

今季の“成果”を手渡すと、岩田の表情はより引き締まった。「今年の倍ぐらいは勝ちたいですね」。秋季キャンプ打ち上げで掲げた15勝という目標へ。すなわちそれは、『7勝=70万円』の寄付金からの倍増以上となる『150万円』を意味する。

「やるからにはしっかり柱になれるように、柱にならないと思っているんで」

今季は故障で出遅れた。まずは先発ローテーションを1年間守り抜くことが先決。大黒柱としての自覚に他ならない。

熱投が大きな変化をもたらしている。2005年の8月に創設された「1型糖尿病研究基金」。3年間でようやく約200万円を集めたが、左腕の「1勝につき10万円を寄付したい」という“一声”で募金額が急増した。なかには1人で100万円を寄付する人も現れるなど、1年足らずで、これまでの1.5倍となる約300万円（岩田の70万円の寄付金含む）が寄せられた。また、昨年12月末に訪問した大阪市立滝川小も熱い思いに同調し、募金を実施。多大な“岩田効果”が波及している。

1型糖尿病の患者・家族の会の連携組織「日本IDDMネットワーク」井上龍夫理事長（56）は「（1型糖尿病の）根治療法につながる研究資金などに役立てたい」と感謝した。「しっかりとローテーションを守りたい」。1人でも多くの同志の手助けになるために -。背番号「21」が希望の光になる。

おおさか報知

岩田、「糖尿病研究基金」倍増へ14勝目指す…阪神



障害物競争で、岩田は顔面を粉まみれにしながらゴールを目指した

阪神・岩田稔投手（26）が「岩田基金」の倍増を公約に掲げた。今季から1勝ごとに10万円を、1型糖尿病の根治療法研究に助成する「1型糖尿病研究基金」へ寄付する活動を始め、21日、甲子園球場で7勝分の70万円を贈呈。来季に向けて「倍はしたい」と、自己最多となる14勝を誓った。

今季はWBC出場後、左肩痛で出遅れたが「（基金の存在が）モチベーションになりました」と、後半戦だけで7勝（5敗）をマーク。同様の活動を継続していくことも約束した。目標到達には、一年を通してローテーションの軸として働くことが必要。「やるからには、柱として働けるように頑張らないと」と、エース格の投球を見せつけるつもりだ。

患者や家族を支援する日本IDDMネットワークの井上龍夫理事長は「（基金は）それまで3年で200万円ぐらいでしたが、岩田選手の協力が決まってからこの一年間で、おそらく300万円を超えていると思います」と影響力に脱帽した。トラのエース左腕が、患者や家族の希望の光になっている。

産経ニュース

【プロ野球】阪神の岩田が1型糖尿病基金へ寄付

2009.11.21 18:42

糖尿病を抱えながらプレーする阪神の岩田稔投手（26）が21日、1型糖尿病患者を支援する「日本IDDMネットワーク」が設立した「1型糖尿病研究基金」に70万円を寄付した。

研究助成のために1勝につき、10万円の寄付を約束していた。7勝を挙げた左腕は「僕が協力して糖尿病が治るのであればうれしいこと。野球選手である限りは続けたい。（来年は）ことしの倍ぐらいはできるように」と話した。

楽天ニュース

阪神・岩田、1型糖尿病基金へ寄付＝プロ野球

[2009年11月21日16時14分]

阪神の岩田稔投手（26）が21日、「1型糖尿病研究基金」へ70万円を寄付した。昨オフ1勝につき同基金に10万円を寄付することを決めた岩田は今季、プロ初完封を含む7勝。「僕が野球選手でいる限りは続けたい。来季は今年の倍くらい寄付できれば」と話した。

1型糖尿病は、主に生活習慣に原因がある「2型糖尿病」とは異なり生活習慣に無関係で、岩田自身も高校時代に発症。現在もインスリン注射を続けている。同基金は1型糖尿病の研究支援として活用される。

時事ドットコム

阪神・岩田、1型糖尿病基金へ寄付＝プロ野球

阪神の岩田稔投手（26）が21日、「1型糖尿病研究基金」へ70万円を寄付した。昨オフ1勝につき同基金に10万円を寄付することを決めた岩田は今季、プロ初完封を含む7勝。「僕が野球選手でいる限りは続けたい。来季は今年の倍くらい寄付できれば」と話した。

1型糖尿病は、主に生活習慣に原因がある「2型糖尿病」とは異なり生活習慣に無関係で、岩田自身も高校時代に発症。現在もインスリン注射を続けている。同基金は1型糖尿病の研究支援として活用される。（2009/11/21-16:18）

YOMIURI ONLINE (読売新聞)

「糖尿病研究に」岩田、70万円寄付

(2009年11月22日 読売新聞)

糖尿病と闘いながら、プロのマウンドに立つ阪神の岩田が21日、「1型糖尿病研究基金」へ、70万円を寄付した。

同基金は、生活習慣とは関係なく、膵島からインスリンが出なくなる1型糖尿病の研究に充ててもらうため、患者の家族らで作る「日本IDDMネットワーク」(井上龍夫理事長)が2005年に設立。大阪桐蔭高2年の時に発症した岩田は昨オフ、基金の存在を知り、1勝につき、10万円を寄付することを決めた。

スポニーツ報知

岩田来季14勝で基金倍増公約…阪神

(2009年11月22日 06時00分 スポーツ報知)

阪神・岩田が「岩田基金」の倍増を21日、公約に掲げた。今季から1勝ごとに10万円を1型糖尿病の根治療法研究に助成する「1型糖尿病研究基金」へ寄付する活動を始め、この日、甲子園球場で7勝分の70万円を贈呈。来季に向けて「倍はしたい」と、自己最多となる14勝を誓った。